

年 組 名 前 :



きれいな三角池をのぞく児童  
甲府・山梨大付属小



# 池復活へ 解決策を模索

山梨大付属小

甲府市

県内の小中学校を紹介し、各学校の先生や児童・生徒会長に学校の自慢や魅力を聞いた。

山梨大付属小には、コイや金魚が泳ぐ三角池があります。昨年5月のある日、そのコイと金魚が全滅していることが分かりました。なぜ、こんなことになったのか。業者が依頼して原因を調べてもらうことになり、児童たちもその様子を見学しました。ところが、水温が上がって池の藻が増えすぎ、魚たちが呼吸困難に陥ったことが一番の原因のようです。魚のいなくなった池を見つめる3年生(現4年生)に、こう投げかけてみました。「みんなの力で、この池をなんとかできないかな?」「やってみたい!!」子どもたちの目が輝きました。この出来事をきっかけに、1年かけて三角池を復活させる総合的な学習の時間がスタートしました。

まずは、三つあるクラスの児童104人が、バケツで濁った水をすくい出すことから始めました。代わる代わるバケツを手にする子どもたち。池の底が見えたのもつかの間、長雨で再び濁った水がたまり、活動が行き詰まってしまってもありました。壁にぶつかるたび、「今、わたしたちは何をすべきか」と担任も加わって何度も話し合いました。

池の水をきれいに保つために必要な循環ろ過器を調べたところ、46万円もすることが分かりました。副校長へ交渉してみるも、最初は失敗。大切な学校のお金を使う意味をよく考えてほしいとの言葉が胸に刺さりました。しかし、ここで簡単にはあきらめません。循環ろ過器を購入する意味や価値について考え、調べ、話し合い、まとめました。三角池の生き物たちが元気になるれば、全校のみんなにも、新しい1年生にも、きっと喜んでもらえる。7月のある日、再び副校長に向かって104人が思い思いの言葉で交渉し、最後には購入につながりました。「やったー!!」その時の子どもたちの歓声が今でも耳に残っています。

①心身ともに健康で、正しい判断力をもって生きる子  
②美に感動し、思いやりの中で接する子  
③価値を見いだし、学び方を身につけながら進んで学ぶ子。

三角池の活動を通して、児童は山梨大付属小の「めざす子どもの姿」に近づいていきました。昨年度末、池に魚を入れましたが、これでゴールではありません。三角池をみんなにとって気持ちの良い場所にする。挑戦と学びは、まだまだ続いています。

(文責・総合主任 窪田健)

(2022年4月21日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと4面)

問1 山梨大付属小の三角池にすむコイや金魚が全滅してしまった一番の原因は、何ですか。

-----

問2 現4年生は、副校長にどんな言葉で、三角池復活のための循環ろ過機購入をお願いしましたか。

-----

問3 失敗しても児童たちは決してあきらめませんでした。この記事を読んで、あなたはどんな言葉を

思い浮かべますか。その理由も書いてください。

「言葉」

「理由」